

2025 年 5 月 26 日

**世界の人びとのための JICA 基金活用事業
終了時活動報告書・(2023 年度採択案件)**

1. 業務の概要	
(1) 案件名	ウガンダ共和国の農村部における水・衛生環境の改善
(2) 実施団体名	特定非営利活動法人コンフロントワールド
(3) 実施期間	2024 年 5 月 8 日～2025 年 5 月 7 日
(4) 実施国	ウガンダ共和国
(5) 活動地域	ブタンバラ県
(6) 活動概要 1) 活動の背景： 活動地域の水・衛生環境には以下のような背景・課題があるため、今回活動を実施しました。 ① 貯水タンク建設 ・水道が整備されておらず、40%の人が容易に安全な水にアクセスが出来ない。 ・子どもや女性が水汲みを担うものの、必要な時に必要な分の水を得ることが難しい状況にある。 ・実態として、片道 1-2 時間かけて水を汲みに行く必要があるため、学校に通えない子どもが存在する。 ② 家庭用トイレ建設 ・50%の家庭がきちんとした設備のトイレを保有していない。 ・壁や屋根がなくプライバシーがない屋外で簡易的な穴に用をたす家庭も多くある。 ・野外排泄によるハエを介した感染症や、排泄用の穴への転落、害虫被害、性被害等のおそれがある。 ③ 石鹸等の生産・配布と衛生指導 ・地域住民は、石鹸と手洗い設備を持っていないことにより、適切な手洗いを行えていない状況である。 ・コロナウイルスによる影響もあり、日用品の物価が高騰し、石鹸が手に入りにくくなっている。 ・人々の衛生管理への意識不足と、医療体制が整備されていないことで、感染症拡大のリスクが高い。 2) 活動の目標： 活動地域において、現地のパートナーNGO（JEDOVIC）と協力し、以下の活動を通じて、水・衛生環境を改善することを目的としています。 (1) 貯水タンクの建設 (2) 家庭用トイレの建設 (3) 石鹸や手洗い装置の生産・配布および衛生指導の実施 この活動は、現地住民約 7,000 人を対象に、水へのアクセスの改善、衛生的な排泄環境の確保、感染症の予防などを実現することを目指しています。 さらに将来的には以下の目標達成を掲げています： ・学校への貯水タンク建設：10 基（受益者約 2,000 名） ・家庭用トイレ建設：100 棟（受益者約 800 名） ・石鹸・手洗い装置提供：14,500 世帯分（受益者約 116,000 名） ・石鹸の地域販売の開始	

2. 業務実施結果

(1) 実施した内容

1) 貯水タンク建設

- 1つの学校に雨水を貯めるための容量 12,000ℓ の貯水タンクを1基設置した。
- タンクには蛇口がついており、合わせて設置した浄水フィルターを使用することで飲み水や、食事前とトイレ後の手洗い・掃除用の水として利用可能。
- 学校の生徒や先生からなる「ユーザー委員会」を発足させ、定期的な清掃や修理費用の集金などを通して、貯水タンクが継続的に維持管理される仕組みを構築した。

2) 家庭用トイレ建設

- 特別に脆弱とされる HIV 陽性者を抱え、安全なトイレを使用できていない世帯等を対象に8棟のトイレを建設した。
- 建設時において、トイレ利用世帯の方にも簡単な作業の手伝いをしてもらうことで、自らトイレを所有して手入れをしてもらうための意識付けを行った。
- 後述する衛生指導も同時に行うことで、トイレ使用後の手洗いや維持管理の重要性について伝えた。

3) 石鹼等の生産・配布と衛生指導

- これまでコンフロントワールドが整備した石鹼生産施設（ソープステーション）で液体石鹼を生産した。
- 手洗い装置や簡易手洗い装置を製作し、石鹼と合わせて地域住民や学校生徒に配布した。
- 配布と合わせて正しい手洗いの方法や石鹼の使い方について、実践的な衛生指導を行った。

(2) 実施成果：

1) 貯水タンク建設の実施成果

- 設置内容：12,000ℓ の貯水タンク1棟 + 浄水フィルター3個
 - 約200人の児童が安全な水を利用できるようになり、登校が可能に。
 - タンクの水が食事前やトイレ後の手洗いや掃除に活用され、衛生環境が改善。
 - 地域住民や学校関係者によるユーザー委員会の設置で、タンクの維持管理体制が形成。

2) 家庭用トイレ建設の実施成果

- 建設数：8棟
 - 約80人が安全で衛生的なトイレを利用できるようになった。
 - プライバシーと安全性の向上（鍵・屋根・壁のある構造）。
 - トイレの所有は家の尊厳にもつながっていることが判明している。

3) 石鹼等の生産・配布と衛生指導の実施成果

- 生産・配布量・衛生指導：液体石鹼 2,661ℓ（学校延べ31箇所、健康センター延べ36箇所、その他公共施設延べ46箇所に配布）、手洗い装置185個生産、簡易手洗い装置726個、衛生指導延べ12,708人指導
 - 石鹼と手洗い装置を通じた正しい手洗い習慣の浸透を図ったところ、予想を上回る人数が衛生指導に関心を持ちプログラムに参加した。
 - 衛生意識の向上による地域全体の健康状態の改善が期待される。

（３）得られた教訓など：

事業を進める中で、燃料費や材料費の高騰により、液体石鹼の生産量が当初の目標よりやや少なくなる結果となった。今後の事業では、開始時点でこうした費用の単価をしっかりと把握し、妥当な価格で予算を組むことで、単価の変動に応じた価格交渉や契約内容の見直しなど、柔軟な対応ができるようにしていきたい。

（４）今後の活動・フォローアップの方針：

１）施設の持続的な運用と維持管理体制の強化

● 貯水タンクやトイレなどのインフラを主体的に管理するユーザー委員会が、より効率的に施設を維持管理し、簡易な故障や修繕にも対応できるようなマニュアルの作成や、JED0VC が定期的に巡回・技術支援を行うようなフォローアップ体制を検討する。

２）衛生教育の定着支援

● 一度きりの衛生指導ではなく、現地の政府や JED0VC を通じて学校の保健教育や地域イベントに衛生啓発活動を組み込むように働きかけることで、子どもを中心に、手洗いや衛生意識の継続的な促進を図る。

３）石鹼生産の地域内展開と自立化支援

● 弊団体がこれまでに設置した石鹼生産施設（ソープステーション）をより活用して、住民が継続的に石鹼を入手できる環境を整備したり、将来的には住民主導で石鹼を生産販売して小規模ビジネスの発生を促すことで、自立の後押しをする。

４）活動成果のモニタリングと段階的拡大

● これまでの活動の成果や課題を定期的にモニタリングして、結果を今後の計画に反映しつつさらに活動を拡大する。モニタリングでは現地の政府機関と連携しつつ、受益者の住民に対してヒアリングやアンケート調査を行ったり、保健センターを通じて感染症患者の変化を確認する。

５）国内外への情報発信と支援基盤の強化

● SNS やホームページを通じた広報活動を継続し、支援者・関心層との関係性を維持する。また、現地訪問や報告書の発信を通じて、透明性ある運営と共感の醸成に努める。

3. その他(エピソード・感想・写真など)

(1) 活動中のエピソード・感想など

手洗いなどの衛生習慣を地域に根付かせるには一定の時間がかかることを実感し、目標を明確に定めたうえで、達成に向けて継続的に支援を行うことの重要性を改めて感じた。

一方で、現地では当初の想定を上回る数の人々が衛生指導プログラムに参加し、子どもたちが自発的に他の子どもへ教え合うといった良い循環も生まれており、活動が地域全体へ広がっていく可能性を感じている。

(2) 活動の写真

写真①



液体石鹸と手洗い装置の配布

写真②



手洗い装置を使用した衛生指導

写真③



簡易手洗い装置を使用した衛生指導

写真④



液体石鹸の生産

写真⑤



完成した貯水タンク

写真⑥



完成したトイレ

（３）JICA 基金活用事業を実施したことで団体の成長につながった点・良かった点

本事業を通じて、経費処理に関する実務能力が大きく向上した。現地では日本のようにレシートが一般的に発行される文化がないため、材料費と労務費を明確に分け、内訳の記載と署名付きのレシート原本を取得・管理するという運用を徹底した。これにより、支出の内容がより詳細に把握できるようになり、弊団体と現地パートナーである JEDOVIC 双方にとって、経費の透明性・適正性を確保することができた。また、この支出内容の細分化は、今後の見積もり作成や費用交渉、適正な単価の判断にも有効であり、今後の事業運営においても大きな参考になると考えている。